

令和6年度水稲作柄判定試験結果（第7回・最終回）

令和7年1月7日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部 水田農業グループ

1. 水田農業グループ（宇佐市、平坦地）における生育概況

「つや姫」の出穂期は平年より2日早く、成熟期は5日早かった。稈長は平年よりやや長く、倒伏の程度は平年より小さかった。登熟歩合が平年より高かったことから、玄米収量は平年より多かった。未熟粒（乳白粒）により、検査等級は3等であった。

「なつほのか」の出穂期は平年より3日早く、成熟期は3日早かった。稈長は平年よりやや長く、倒伏の程度は平年より小さかった。1穂粒数が平年より多かったことから全粒数は平年より多く、玄米収量は平年より多かった。検査等級は1等であった。

「ヒノヒカリ」の出穂期は平年より1日早く、成熟期は4日早かった。稈長は平年並であり、倒伏はみられなかった。穂数および1穂粒数が平年より多かったことから全粒数は平年より多く、玄米収量は平年より多かった。未熟粒（背白粒）により、検査等級は2等であった。

生育ステージと成熟期時点の生育

品種	年次	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	倒伏程度 (0-5)
つや姫	本年	8/14	9/23	86	21.1	1.5
	前年差・比	-2	+1	106	114	+1.0
	平年差・比	-2	-5	102	110	-1.0
なつほのか	本年	8/18	9/30	91	22.3	1.0
	前年差・比	-3	+1	111	114	+1.0
	平年差・比	-3	-3	104	116	-0.8
ヒノヒカリ	本年	8/24	10/6	88	20.6	0.0
	前年差・比	-1	-1	104	108	±0.0
	平年差・比	-1	-4	100	105	-0.5

差・比の値に符号がついているものは差、ついていないものは比を示す。倒伏程度は、無(0)～甚(5)で示す。

収量、収量構成要素および品質

品種	年次	穂数 (/m ²)	1穂粒数	全粒数 (10 ³ /m ²)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	玄米収量 (kg/10a)	検査等級 (1-6)
つや姫	本年	366	101.3	37.1	79.2	21.2	620	5.0
	前年差・比	86	122	106	+8.4	102	121	±0.0
	平年差・比	92	108	100	+7.2	101	113	+0.5
なつほのか	本年	357	102.4	36.5	82.3	23.4	702	2.0
	前年差・比	97	126	122	-8.7	98	108	-0.5
	平年差・比	94	124	116	-3.9	100	111	-1.5
ヒノヒカリ	本年	376	99.3	37.3	81.1	22.2	671	4.0
	前年差・比	107	124	133	-8.4	97	116	±0.0
	平年差・比	104	117	121	-2.8	100	119	-1.0

差・比の値に符号がついているものは差、ついていないものは比を示す。千粒重および玄米収量は、粒厚 1.8 mm 以上の重量を含水率 14.5% に換算した値で示す。検査等級は、1 等上 (1) ~ 1 等下 (3)、2 等 (4)、3 等 (5)、規格外 (6) で示す。

2. 気象概況／6月5半旬～10月2半旬

観測値：水田農業グループ（宇佐市）、標高 30 m

- 1) 気温 【期間中の本年値：26.4℃ 平年値：24.0℃ 平年差：+2.4℃】
平均気温は期間を通じて平年よりかなり高く、最高気温、最低気温ともに高かった。
- 2) 降水量 【期間中の本年値：406 mm 平年値：306 mm 平年比 133】
7月3半旬および8月6半旬には平年よりかなり多かったが、その他の期間はおおむね平年より少なかった。
- 3) 日照時間 【期間中の本年値：388 h 平年値：347 h 平年比 112】
7月3半旬には平年よりかなり少なかったが、その他の期間はおおむね平年より長かった。
- 4) 台風
10号（8月30日最接近、最大風速 5.8 m/s）

3. 今年の作柄

県内にてトビイロウンカ注意報（6月20日）、トビイロウンカ防除技術情報（7月8日）および斑点米カメムシ類注意報（8月2日）が発令されたが、本試験において被害はみられなかった。

移植から7月中旬にかけての日照時間は平年より短く、穂数は「ヒノヒカリ」を除いて平年より少なかった。一方で7月下旬以降は高温・多照であったことから、全籾数または登熟歩合は平年を上回り、いずれの品種も玄米収量は平年より多かった。

「つや姫」および「ヒノヒカリ」の玄米外観品質は、白未熟粒の発生により低下した。「つや姫」では乳白粒がみられ、登熟初期（出穂後10日間）に平均気温29℃を超える高温に遭遇したことや登熟中期（出穂後16日頃）に台風に遭遇したことが要因であると考えられた。また「ヒノヒカリ」では背白粒がみられ、登熟初中期（出穂後20日間）に平均気温27℃を超える高温に遭遇したことが要因であると考えられた。

4. 試験方法

1) 供試品種

「つや姫」、「なつほのか」、「ヒノヒカリ」

2) 移植日

6月20日

3) 栽植密度

15.2株/m²（条間30cm、株間22cm、1株4本手植え）

4) 窒素施用量

「つや姫」基肥 - 追肥 = 4 - 2 kg/10a、

「ヒノヒカリ」「なつほのか」基肥 - 追肥 = 4 - 3 kg/10a

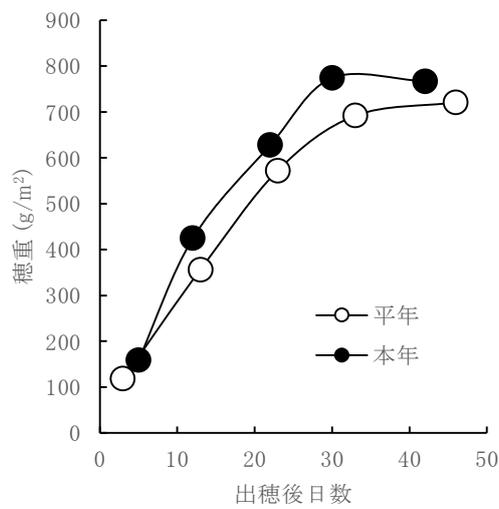
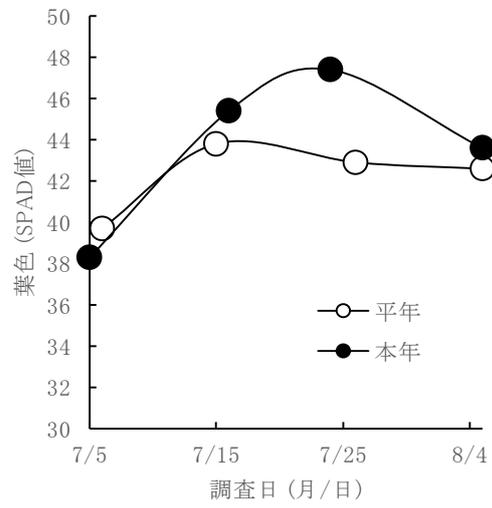
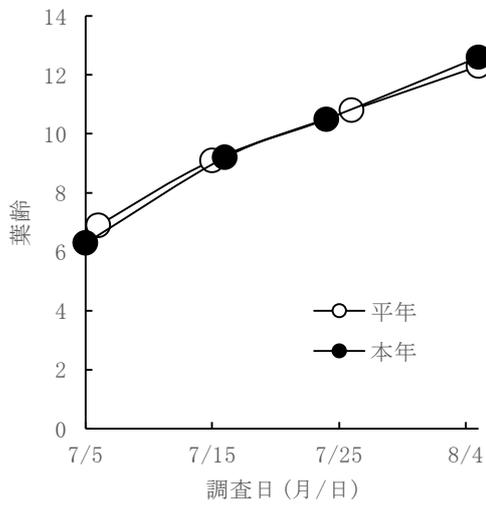
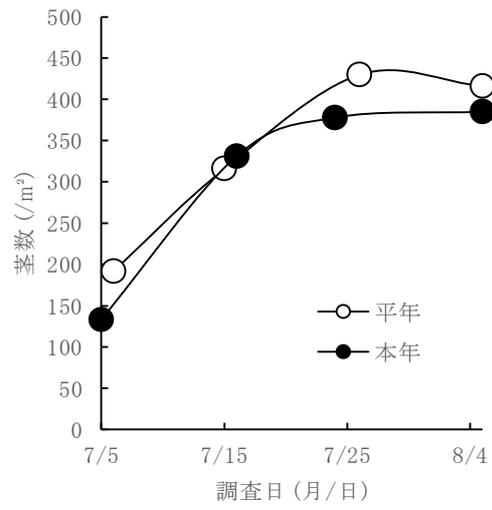
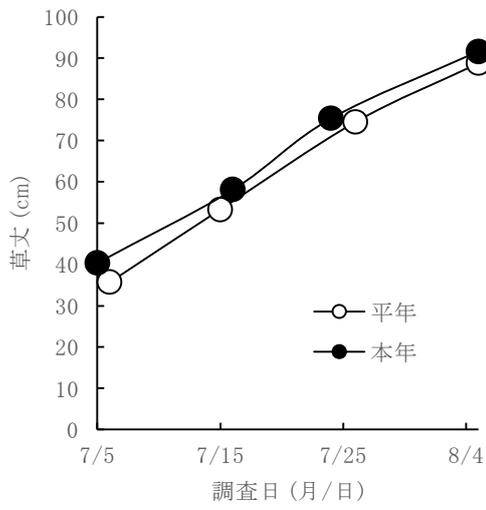
5) 平年値

「つや姫」「ヒノヒカリ」過去4カ年の平均値

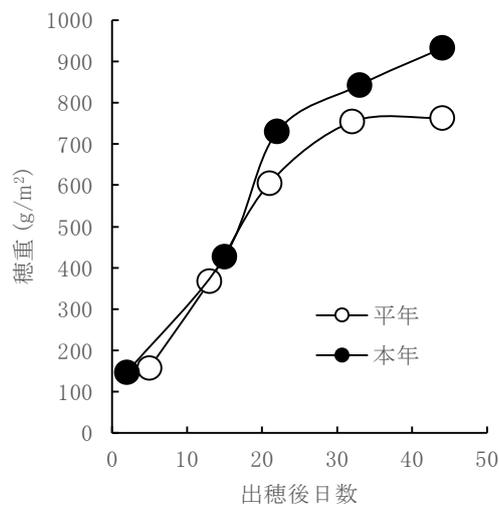
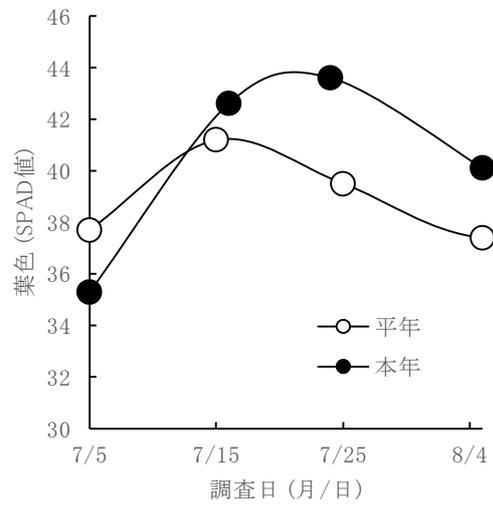
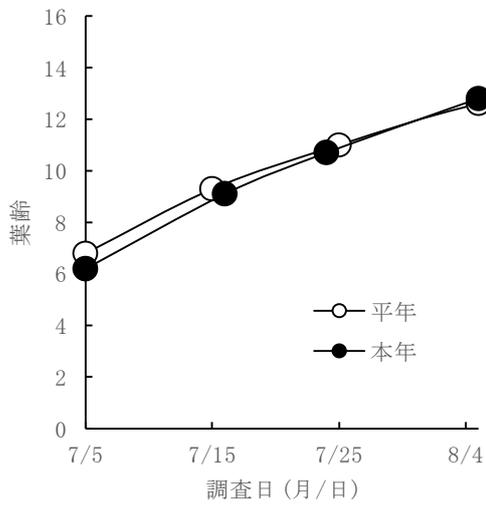
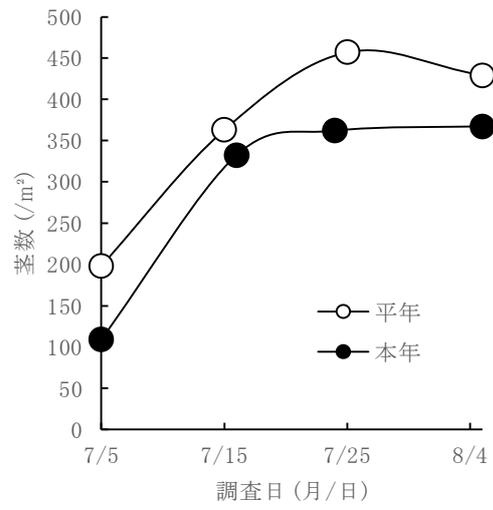
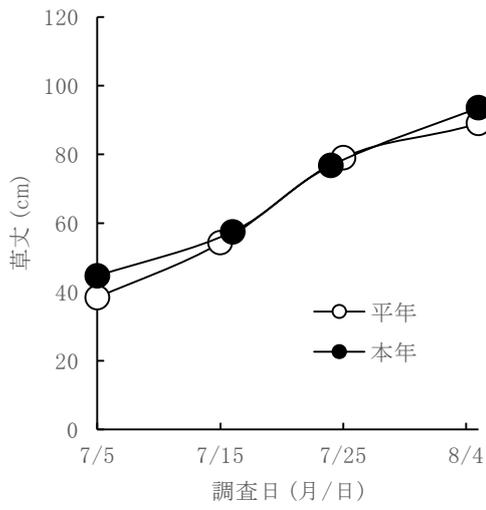
「なつほのか」過去3カ年の平均値

6) 調査基準日

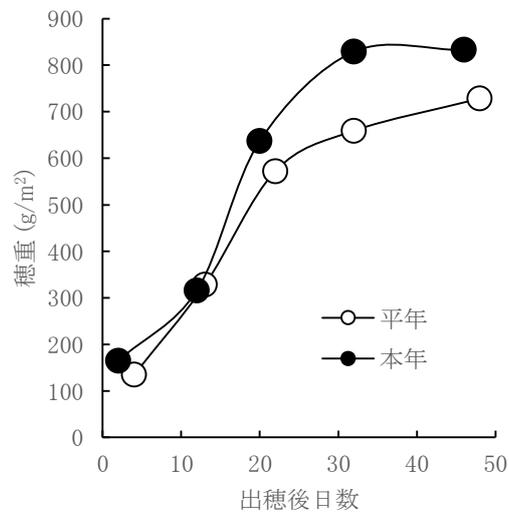
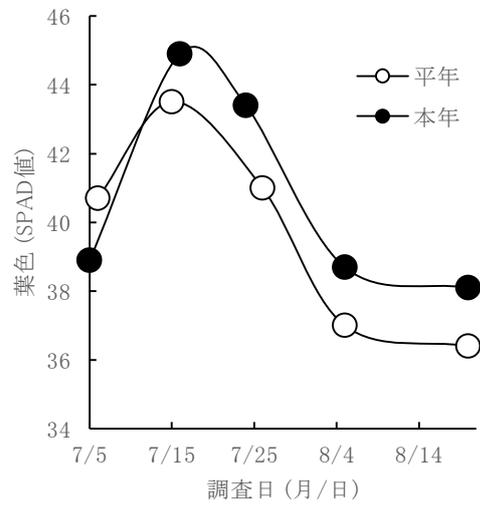
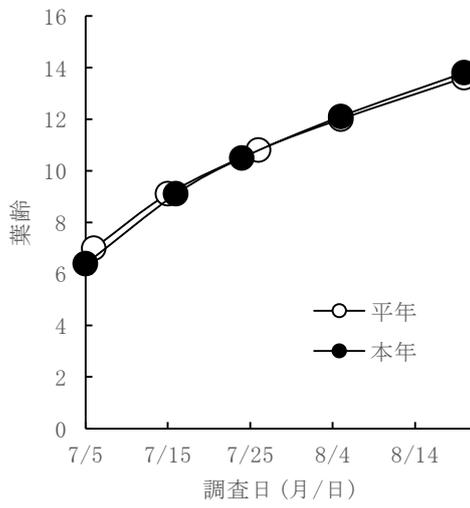
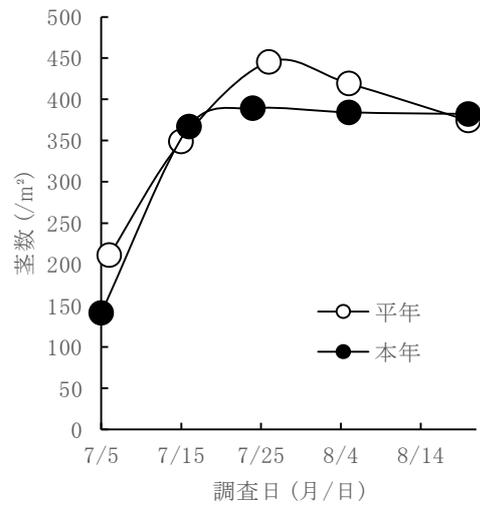
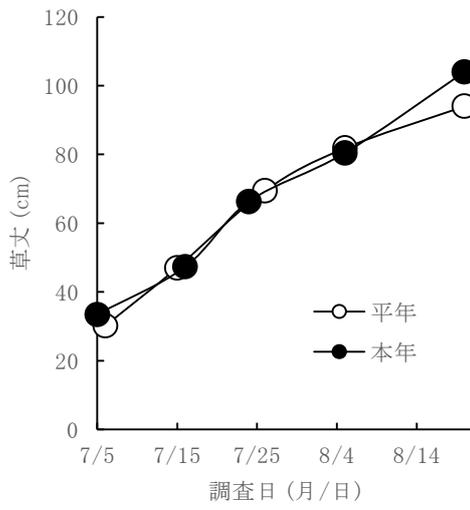
7月5日、7月15日、7月25日、8月5日、8月20日、成熟期



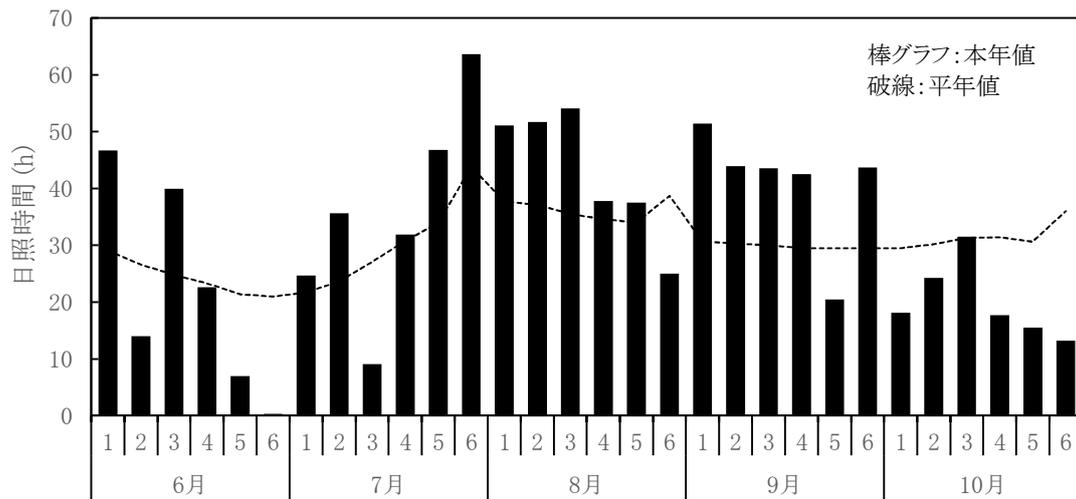
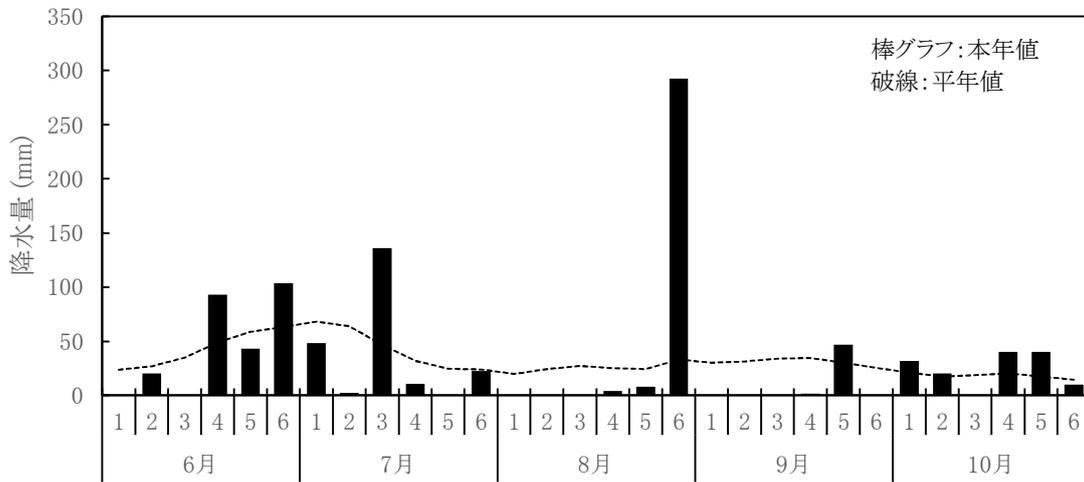
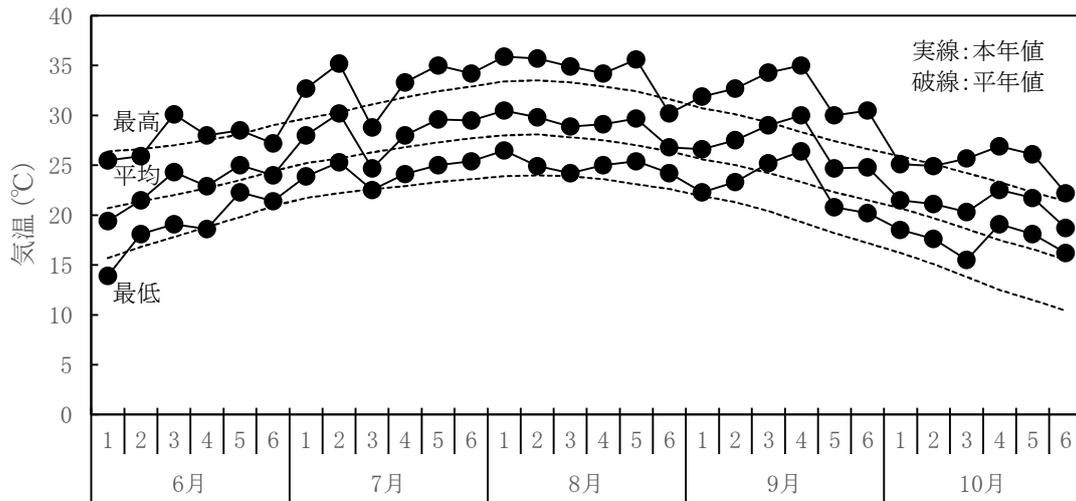
「つや姫」の生育推移



「なつほのか」の生育推移



「ヒノヒカリ」の生育推移



令和 6 年度夏作期間気象図 (宇佐市、標高 30 m)

*平年値は 1994~2023 年の 30 カ年の平均値を示す。